

すぎなみソーシャル・デザイン塾～杉並をデザインする社会起業家になる～

第一章 「つながり発見」～自分を知る・杉並を知る

学習支援者：(株)三井物産戦略研究所 新谷大輔さん

ソーシャル・キャピタル・ワークショップ (06年8月30日8水) 19時より

今回は、中野民夫さんから、ワークショップを通じて社会とのつながりを感じ取る体験型していただけたと考えていますが、今日は更に、「つながり」というものを強く感じて欲しい。

1 本講座の課題を設定します。

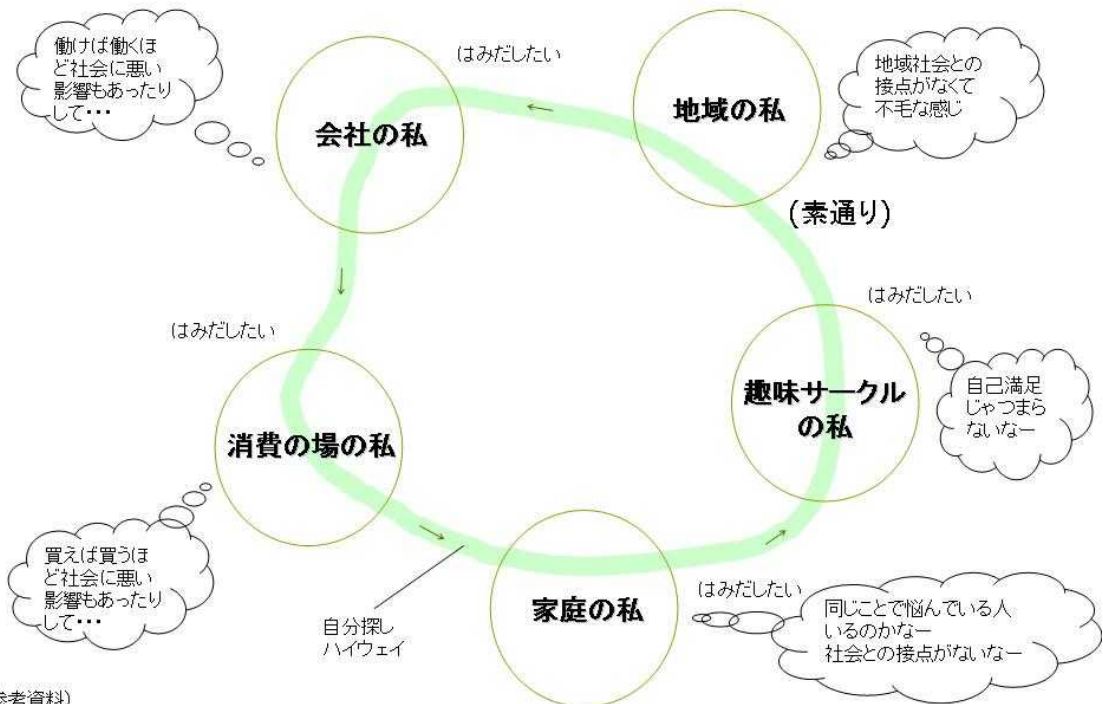
講座出席者がお互いにつながっているものは「何か」と、共通点は「何か」ということをワークショップで認識することを狙いとします。

- 1) 以下の資料を見ながら、お互いが持っている共通点などに目を向けてください。
- 2) 会社・消費者・地域・趣味などの分野で、どのような事柄について、自分は興味を持っているのかを考えてください。これから、2人組になって、対談しながらお互いの共通点を探してください。
- 3) お互いの共通点が何であるかの確認が済んだら、黒板に書いてあるカテゴリーに確認点を書き出してください。(会社・地域・消費・趣味・家庭に分類)

未来マッピング 「未来をデザインする」

すぎなみソーシャル・デザイン塾作業ワークシート

2006年7月19日



(参考資料)  
博報堂生活総合研究所

Daisuke Shintani 2006

## 2 事例：お互いの共通点を探す（AさんとBさんの場合）

Aさんの仕事は、行政分野から都市計画、まちづくりのあり方を考えること。「地域をつくる」「地域を再生すること」などに考え思いをめぐらすことが多い。

Bさんは、社会教育分野から、地域の課題を解くことをフィールドの分野から活動している。

地域をつくることや地域を再生することなどは、日々を暮らす人々と行政が持っている知見、常識、体験、経験・法規など、ハード面とソフト面の智慧が生かされて、初めて可能と思う。行政とNPO的な活動が協力し合って、一連の「地域づくり」「地域コミュニティの再生」が出来る。

日々を暮らす人々が、杉並区など、「公」に対する興味を持つことになれば家庭、消費、趣味、NPOなどを通して「地域づくり」「地域コミュニティの再生」に繋がる活動が盛んになると考える。

## 3 黒板に書き出した確認点 省略

## 4 参加者を、環境、仕事、健康、趣味の4カテゴリーに分けて、グループごとに話し合いをする。4,5人で話し合い、自分との共通点を探し出すことを狙いとする。

### 事例：「仕事」のグループ

- ・ Aさん 外資系のIT会社勤務経験から得た仕事上の考え方は、「仕事は自己学習のチャンス」でいつも学ぶ姿勢でした。キャリアアップに繋がるし、「学ぶ姿勢」が家族を育てることに繋がる。
- ・ Bさん バイオ関係の研究職です、職場は、研究第一で人間関係も微妙で、繊細なところがあり、気を使うところが多々ある。それだけに自分がどれだけ社会参加しているのか、自己実現をどこまで果たしているのかなどに興味を感じている。
- ・ Cさん 企業勤務後、某財団に勤める、地球温暖化に対するNGOと行政との取り組みに興味を持ち出した結果、環境問題に特化した環境NGOに勤めている。  
さらに課題を追い詰めたいという興味が仕事を変える、キャリアを積むという市井になってきた。
- ・ Dさん 地域のNPO活動をしている、NPOは活動資金が豊富とはいえないので、行政とリンクした活動が多くなる。NPO活動の間口を広げる意味で、NPO自身が活動資金を得るNPOビジネスモデルを作成中。

< 仕事から感じること ~なぜ働くのか、働く魅力は何か、共通点探し~ >

- ・ 社会との接点、つながりを持ちたい気持ちが捨てられない
- ・ 生活スタイルにバラエティーのある人々に遭遇する楽しさ
- ・ チャンスを求める、向上心、キャリアアップに繋がる興味
- ・ 情報などの国境がなくなることを実感
- ・ ストレスあり